



2022年8月22日

報道機関 各位

東北大学大学院教育学研究科
神奈川県立保健福祉大学
北海道教育大学釧路校
東北福祉大学

新型コロナウイルスに対する立場による感染不安の比較 ～ 一般対象者、妊婦、看護師、大学生の感染不安の高さの比較 ～

【発表のポイント】

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の拡大初期（2020年5月～6月）に、一般対象者、妊婦、看護師、大学生の感染不安を調査し、それぞれの感染不安の高さや関連要因を比較した。
- ◆ 感染不安は、妊婦が突出して高く、大学生がもっとも低く、看護師は一般対象者と同程度であった。妊婦のメンタルヘルス支援の重要性が示された。
- ◆ 感染リスクが高い看護師の感染不安が一般対象者と同程度であったことから、看護師に感情の麻痺が起きていた可能性や、適切な知識が感染不安の低減に結び付いていた可能性が考察された。

【概要】

COVID-19の蔓延は、人々のメンタルヘルスに大きな影響を与えています。東北大学大学院教育学研究科の若島孔文教授を中心とした研究グループは、COVID-19への不安に関する継続的な調査を行ってきました。この度、これらのデータを統合し、感染拡大初期（2020年5～6月時点）における、立場による感染不安の強さや関連要因の違いについて総合的な分析を行いました。一般対象者、看護師、妊婦、大学生の回答を分析した結果、感染不安は、①妊婦、②一般対象者および看護師、③大学生の順に高く、一般対象者と看護師の間には統計的に差が認められませんでした。この結果から、妊婦のメンタルヘルス支援の重要性や、病院で働く看護師に感情の麻痺が起きていた可能性が議論されました。なお、本研究成果は、国際英文雑誌であるPLoS Oneにて、2022年7月13日に公開されました。

【詳細な説明】

COVID-19 という未知の感染症の蔓延は、人々のメンタルヘルスに、大きな影響を与えている。とくに、COVID-19 への感染に対する不安（以下、感染不安）は、パンデミック下の精神衛生の中核をなすとされている(Doshi, et al., 2020)。こうした実態に対して日本では、東北大学の若島教授を中心とした研究グループが、あらゆる時期の様々な立場の人々を対象に、感染不安をテーマとした継続的な研究を重ねてきた。これらのデータの中には、オンライン講義への切り替えなど多くの社会的混乱を経験した大学生 (Takagi et al., 2021), 感染した場合の重症化のリスクが高いとされていた妊婦 (Asai et al., 2020), 感染者と接触するリスクがほかの立場より高い看護師(Koiwa et al., 2021)と、立場の異なる感染不安の研究がそれぞれ行われ、すでに学術雑誌に掲載されている。しかしながらこれらの研究は個別に行われた研究であるため、これらのデータを統合して比較検討することで、立場による感染不安の高さや、その関連要因を比較することが求められる。

以上により本研究では、日本人の感染不安とその関連要因について、社会的立場による比較を行うことを目的とした。具体的にはまず、すでに行われている大学生(Takagi et al., 2021), 看護師 (Koiwa et al., 2021), 妊婦(Asai et al., 2020)の3つの立場について、すでに行われたデータを用いた。また、大学生, 妊婦, 看護師を除いた日本人を「一般対象者」として、新しく同様の項目を調査した。そのうえで、一般対象者をベースラインとして、大学生, 看護師, 妊婦の3つの立場について、感染不安の高さと関連要因を検討した。

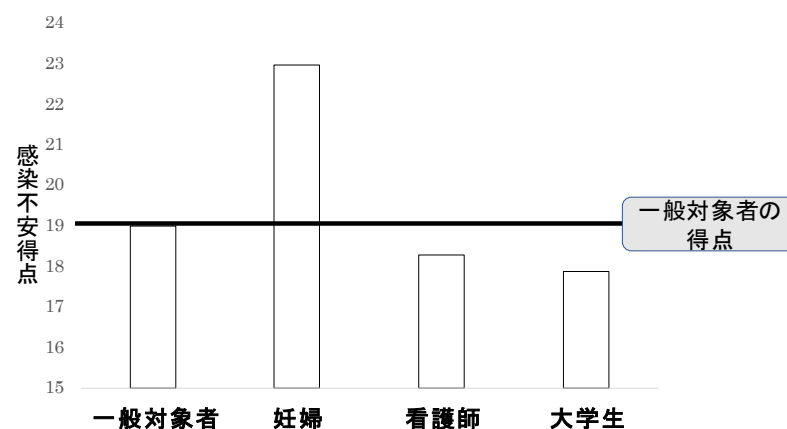
インターネット調査で新たに収集した 450 名の一般対象者の回答, 318 名の妊婦の回答(Asai et al., 2021), 152 名の看護師の回答(小岩他, 2021), 300 名の大学生回答(Takagi et al., 2021)の合計 1220 名の回答が、分析に含まれた。立場による感染不安得点の違いを、分散分析により検討した結果、立場による感染不安得点の差異が示された ($F=54.59, p<.001$)。多重比較の結果、一般対象者($M=19.00, SD=5.28$)と看護師($M=18.27, SD=5.13$)の間に、有意差がみられなかった。他方で、一般対象者と比較して、大学生($M=17.88, SD=4.95$)の感染不安は低く ($p<.01$), 妊婦($M=22.96, SD=5.68$)の感染不安が高いことが示された ($p<.001$)。ほかに、大学生と妊婦, 看護師と妊婦の間にそれぞれ有意差がみられた(どちらも $p<.001$)。

一般対象者と比較して、妊婦は高く、大学生は低く、看護師が同程度の感染不安を抱えていることが示された。この結果から、妊婦は、一般対象者, 大学生, 看護師と比較して、高い感染不安をもっていることが明らかになった。妊婦を含めたハイリスク者は自然災害や大規模な疾病の流行に対して特に脆弱であるため(Favre et al., 2020), 感染不安が高まっていることが推察される。他方で、看護師の感染不安は、妊婦よりも低く、一般対象者および大学生と有意な差がないことが示された。看護師は、COVID-19 の感染者と接触するリスクが高い立場

にあり(国際看護学会, 2020), 特に感染不安が強いと指摘されているが(Doshi et al., 2020),本研究の結果はこれらと一致しない結果となった。このことについて, 過去の感染症の研究では, 感染に関する情報に多くさらされることで, 感情の麻痺が起こり, 不安が生じにくくなるという研究報告がある(及川・及川, 2010)。, パンデミックにおける看護師の職場では, COVID-19 に関する情報が多くあふれていたため, 感情の麻痺が起こり, 感染不安が抱かれなかったのではないかと考えられる。一方で, 看護師は, ほかの人々と比較して, COVID-19 への予防や, 感染した場合に必要な処置などの専門的な技術や知識をもっていると予想される。このように, COVID-19 への適切な知識や対処方法をもっていることが, 看護師の感染不安の低さに寄与しているのではないかと推測される。

また, 本研究では, ステップワイズ法による重回帰分析を用いて, 感染不安の関連要因についても検討を行った。その結果, 大学生と妊婦では主要な情報源が, 看護師では高齢の家族との同居が($\beta=.19, p<.05$), それぞれ感染不安と関連していた($\beta=-.13; -.12, ps<.05$)。一般対象者ではこれらの結果が示されなかったことから, それぞれの立場に特徴的な結果であると推察される。感染者に接触する可能性が高い看護師は, 自身が感染源になることを懸念するとされている(Huang et al., 2020)。一方で, 高齢者は感染した際の重症化リスクが高いことから(厚生労働省, 2021), 高齢者家族をもつ看護師においては, 特に自身が感染源となることを恐れている傾向があることが推察される。また, 新聞やテレビなどの伝統的なメディアは, 妊婦の恐怖心を高めている可能性が指摘されているが(Asai et al., 2020), 大学生にも同様の結果がみられた。妊婦と大学生や, パンデミックにおいて, 比較的対人接触が少ないことが共通していると推察される。したがって, SNS などのメディアが, 感染不安の低減に役立っていたのではないかと考えられる。

【参考図】立場による感染不安得点の比較



論文題目: Fear of COVID-19 infection and related factors in Japan: A comparison of college students, pregnant women, hospital nurses and the general public

Authors: Kohei Koiwa, Koubun Wakashima, Michiko Ikuta, Keigo Asai, & Gen, Takagi

日本語タイトル: 日本における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への感染不安および関連要因 —大学生, 妊婦, 看護師と一般対象者の比較—

著者: 小岩広平・若島孔文・生田倫子・浅井継悟・高木源

掲載誌: PLoS One

URL : [10.1371/journal.pone.0271176](https://doi.org/10.1371/journal.pone.0271176)

【問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学大学院教育学研究科

教授 若島 孔文(わかしま こうぶん)

電話番号: (022) 795-6139

E-mail: kobun.wakashima.d3@tohoku.ac.jp

(取材に関すること)

東北大学教育学部・教育学研究科

総務企画係

電話番号: (022) 795-6103

E-mail: sed-syom@grp.tohoku.ac.jp